いすみ市大原海岸日在浦地区及び大原漁港海岸
海岸づくり会議 地区勉強会（大原漁港）

会議録

日時：令和6年12月19日（木）
午後3時50分～午後4時36分
場所：夷隅東部漁業協同組合 会議室

1 開会 午後3時50分

○**司会** 海岸づくり会議の漁港地区における地区勉強会を開催させていただきます。本日の司会を務めさせていただきます。いすみ市役所建設課の國藤と申します。よろしくお願いたします。

これより着座にて進行させていただきます。失礼します。

それでは、地区勉強会開催にあたりまして、まず、配布資料の確認をお願いいたします。本日の次第、資料1「海岸づくり会議の目的及び趣旨」、資料2「津波対策に対する意見交付の進め方」、資料3「千葉県津波対策案」、資料4「第1回海岸づくり会議会議録」の以上5点となります。

不足している資料がありましたら申し出てください。

なお、配付資料の3につきましてはまだ素案であります。

検討材料としての資料であり確定ではありません。この資料が決定と誤解を招く恐れがありますので、本勉強会終了後、回収をさせていただきたいと思っております。ただ、今後も漁業者との協議資料として必要になる可能性がありますので、漁業組合の方に一部置いていきますので、それに対応していただければと思っております。

また、事務局は、今回会議の結果を取りまとめることから、写真撮影および録音の方をさせていただきたいと思っておりますので、ご了承いただきたいと思っております。それでは次第に沿って進めさせていただきます。

2 挨拶

○**司会** 次第の2「挨拶」

地区勉強会開催にあたり、いすみ市建設課より、挨拶申し上げます。

○**事務局** 皆さん、こんにちは、いすみ市建設課です。よろしくお願いたします。

本日は理事会の貴重な時間をいただき、誠にありがとうございます。

本日の海岸づくり会議地区勉強会については、10月24・25日に、東海地区及び大原漁港区域内の各区長さんを対象に勉強会を開催させていただきました。その勉強会で、漁業区域内の区長さんから漁業組合への方々にも勉強会を開催し、津波対策に関する説明をした方がいいのではないかと意見をいただき、本日理事の皆様説明をする機会をいただきました。

この後、海岸づくり会議の目的及び趣旨等を説明させていただきますので、よろしくお願いたします。簡単ではありますが、ご挨拶をさせていただきます。

3 出席職員紹介

○**司会** 続きまして次第の3「出席職員紹介」に移ります。

本日出席しております千葉県及びいすみ市職員の紹介をさせていただきます。

4 事業説明

○**司会** 続きまして次第の4「事業説明」になります。

お手元の資料1「海岸づくり会議の目的及び趣旨」及び資料の2「津波対策に対する意見聴取の進め方」について、続けていすみ市より説明をいたします。

なお、ご意見ご質問につきましては、次第5の「意見交換」で求めたいと思いますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。それでは事務局より説明いたします。

○**事務局** 資料1をご覧ください。目的は、本会議は「いすみ市大原海岸日在浦地区及び大原漁港海岸」において、千葉県が「千葉東沿岸海岸保全基本計画」に基づく事業を実施するにあたり、津波対策について地域の意見を聞くことを目的としております。

次に海岸づくり会議設立の趣旨ですが、千葉県では津波防護の考え方を取り入れた海岸保全基本計画の変更を平成28年9月に行い、整備については海岸保全基本計画の防護水準を基本としています。

また、地域の意向や特性に応じたきめ細やかな海岸づくりを推進していくためには、海岸ごとに地域住民や関係団体の意見を聞き計画を策定し、防護環境利用が調和した総合的管理を行うことが望ましいとされています。このため、大原海岸日在浦地区及び大原漁港海岸についても、いすみ市を主体として関係団体や地域の住民などからなる海岸づくり会議を設置し、地域全体による魅力がある海岸づくりを目指しています。検討対象位置については、図に示すとおり日在浦海岸から大原漁港海岸となります。

続きまして、資料2をご覧ください。「津波対策に対する意見聴取の進め方」となりますが、ステップ1といたしまして第1回海岸づくり会議。現状の理解といたしまして昨年7月30日開催いたしました会議となります。目的といたしまして現状の課題と共有、議題といたしまして、1開催の趣旨及び運営要領の説明、2津波対策の考え方、3対象地区の概要、防護ライン断面イメージ、4意見交換となります。

ステップ2といたしましては、現状理解といたしまして、意見募集や地区勉強会といたしまして、各地区への事業説明など検討・協議し実施の方向で検討してまいります。これが本日の会議となります。

ステップ3といたしましては、第2回海岸づくり会議対策案検討などとなり、目的は対策案の検討、議題といたしまして、1対策案断面、防護ラインへの意見、2対策案の設定となります。

なお、今後の地区勉強会や会議の回数、内容は進捗状況により適宜変更となります。以上となります。

○**司会** 資料1及び資料2の説明が終わりました。続いて、資料3千葉県津波対策案の説明について、千葉県より説明をお願いいたします。

○**夷隅土木事務所** 千葉県夷隅土木事務所建設課です。よろしくお願ひいたします。今、お話ありましたように、県では津波対策について海岸に近い地区の皆様のご意見をいただきたいと考えております。

私からは、千葉県津波対策の基本的な事項をご説明いたします。

お手元の資料3をご覧ください。1ページ開けていただいて、こちらの方が目次になっております。

1では千葉県における「千葉東沿岸海岸保全基本計画」についてご説明いたします。2では「津波対策における対象とする津波の種類とその対応策に関する基本的な考え方」についてお示しいたします。3では「津波対策基本方針」について、防潮堤等の海岸保全施設で背後地を防護するにあたっての防護施設の高さについての考え方をお示しします。4では「津波に対する一般的な対策事例」をお示しいたします。5では「千葉県の津波対策基本方針」について、大原海岸日在浦地区における津波の浸水範囲の予測図と津波・高潮・高波対策を考慮した海岸安全施設等の高さの目安、護岸によるハード対策を行った場合のイメージをお示しいたします。

3ページをご覧ください。

海岸保全計画についてでございます。千葉県では、「千葉東沿岸海岸保全基本計画」を策定し、海岸防護のための施設の整備はもとより、環境保全や利用に配慮した総合的な海岸保全を推進していくこととしております。

平成23年3月11日に発生しました「東北地方太平洋沖地震」では、千葉東沿岸において甚大な被害が発生したことから、防護の考え方を見直す必要が生じました。そこで、県では平成25年11月に「千葉東沿岸海岸保全基本計画」の変更を行ったところであり、海岸保全施設の高さの目安を「高潮」から守る高さから、「高潮」と「津波」どちらでも守れる高さに変更しております。

4ページをご覧ください。

津波への対応の考え方についてご説明いたします。今後、津波対策を構築するにあたりまして、基本的に2つのレベルの津波を想定する必要があります。

1つはL1津波と呼ばれる津波で、これは発生が数十年から百数十年に一度程度と、この後お話しします最大クラスの津波と比較すると、発生頻度が高く、津波の高さは低いものの大きな被害をもたらす津波を示しております。

もう一つがL2津波と呼ばれるもので、これが最大クラスですね。発生頻度は極めて低いものですが、ひとたび発生すれば甚大な被害をもたらす最大クラスの津波を示しております。

前者の L1 津波を設計津波と設定しまして、人命とか住民財産の保護、地域経済の確保の観点から、原則として防護施設等を整備するなどの対策を行い、後背地を防護いたします。

後者の L2 津波については最大クラスの津波ですので、この津波を対象として対策工等を考えると、施設規模が巨大なものになって、整備のための用地確保とか整備期間、あるいはコストの面から実現性が乏しいものとなってしまいます。

よって、最大クラスの津波に対しては、人命を守ることを優先としまして、避難を軸に、とりうる手段を尽くした総合的な対策を確立するものとしております。

5 ページをご覧ください。

津波対策の基本方針についてご説明いたします。先ほど津波対策の基本的な考え方もご説明しましたとおり、対策工として施設整備を行う場合の設計津波としては、発生頻度の比較的高い津波である L1 津波を対象としております。図にお示ししていますように、防潮堤等の海岸保全施設や山、崖などの自然の地形、土塁、海岸部にある道路などを含めた「海岸保全施設等の高さの目安」は、L1 津波の到達高を予測計算した上で、津波に先駆けて発生する地震で地盤沈下などもありますので、そういった要素をあらかじめ加えた高さで設定しております。

一方、先ほどの説明にありました最大クラスの津波である L2 津波については、L1 津波に対する対策をとったとしても、防潮堤を乗り越えて背後地に浸水が生じることが想定されます。このため、最大クラスの津波に対する備えとしましては、防潮堤等の高さの確保によるものではなく、避難を主とした対処とするものとしております。

L1 津波に対する対策をしたとしてもこれで絶対安心ということではありませんので、津波の発生が予想された場合には、避難行動をとっていただく必要があると考えております。

次のページをご覧ください。(P6)

L1 津波の対策としては、構造物によります津波の制御を目的としたハード対策と、津波被害の軽減を目的として避難を軸とするソフト対策の 2 つの津波対策がございます。ハード対策を実施するかどうかということについても、ソフト対策と合わせて考えていく必要がございます。

なお、夷隅土木事務所管内で以前に他の箇所で、海岸づくり会議を開催しております。その時は、「海岸の利便性の低下とか景観が悪くなる。」「津波が来た場合は、逃げる」のような意見をいただいて、防波堤等の嵩上げによるハード対策は行わないで避難等の防災対策をすることで意見が決まっているという状況でもございます。

7 ページをご覧ください。

まずハード面での津波対策の方法の事例を示しております。構造物による津波制御を目的としまして、防潮堤とか津波防波堤の整備、それから護岸、堤防、水門、陸閘などがございます。

続いて、次のページをご覧ください。(P8)

ここでは、ソフト面での津波対策に対する一般的な対策事例としまして、津波被害の軽減を目的に、津波のハザードマップの作成や避難路標識、避難場所の整備、津波避難タワーと施設の整備などがございます。

以上が一般的な津波対策の話になるんですけど、ここから少し具体的にこの地域のことをお話ししたいと思えます。

9 ページをご覧ください。

海岸保全基本計画上の検討区間についてですが、千葉県で海岸保全を考える上での区分としまして、図のように県内の沿岸地域で地域の特性が同じ区間で分割しております。青字で示しておりますのが、浦安から館山市洲崎までの東京湾沿岸7地域海岸でございます。赤字で示しておりますのが、銚子市から館山市洲崎までの千葉東沿岸13地域海岸となっております。大原海岸日在浦地区及び大原漁港海岸につきましては、千葉東沿岸13地域海岸のうちの⑩太東漁港から松部漁港までの海岸となっております。

次のページをご覧ください。(P10)

ここでは、大原海岸日在浦地区における津波高潮高波対策を考慮した海岸保全施設の防御施設の高さの目安を示しております。

海岸保全施設の高さは、津波対策と高潮対策のそれぞれ必要な高さのうち、高い方を採用しております。

今回検討区間であります太東漁港から松部漁港においては、津波対策として必要な高さのシミュレーションを行った結果、一番高かった箇所でT.P. +5.7mとなりました。T.P.は東京湾の海面高さで、標高も0.0mとなりますので、そこから5.7mとなります。

また、高潮対策として必要な高さについては、広域的な高潮であって個別の高潮高ではありませんけれども、T.P. +5.0mとなっております。したがって、大原海岸日在浦地区では、津波対策として必要な高さはT.P. +5.7mを採用しまして先ほど申しましたけれども、津波を発生させる地震による地盤沈下が発生する可能性がございますので、10 cm程度の沈下量を想定しましてT.P. +5.8mを海岸保全施設等の高さの目安として設定しております。なお、大原漁港海岸につきましては、防波堤等を考慮して高さが異なりますので、後ほど説明いたします。

次のページをご覧ください。(P11)

こちらの方は、シミュレーションを行いまして大原海岸日在浦地区及び大原漁港海岸地区の浸水予測図についてご説明いたします。浸水予測の範囲における浸水の深さを2つに色分けしております。最大水深が45cmの範囲については黄色で、最大水深が45 cm以上の範囲は水色で着色しています。

この浸水予測図は、潮位が高いときに「東北地方大洋沖地震」の津波が発生した場

合のシミュレーションを行ったものです。これを見ますと、主に海岸線及び塩田川沿いで浸水が発生することがわかると思います。

この後、左の砂浜の地域の浸水予測部が次のページ (P12) とその次のページ (P13) で拡大して示しております。

14 ページで、こちらの海岸につきましてどういう形で施設を整備していくか、他にハード施設対策を取ったときのイメージを示しております。

基本的な考え方としまして、この図の赤点線で示したように、海岸線に沿って防潮堤を整備するという事で考えております。

次のページ (P15) とその次のページ (P16) が日在の砂浜の方で、一番北の方を1工区というふうに県の方で区分させていただいている地域のイメージ図でございます。上の方、1工区の整備前のイメージというのが現状の砂浜の写真でございます。下の方の図が自動車道の高さが+4.11mとなっておりますのでこの地域にハード施設である護岸を設置した場合のイメージというのが、こちらのイメージでございます。仮にこちらの方にハード対策をした場合のイメージと形を見ますと、こちらの防潮堤の高さが+5.8mということで、現況の自転車道の高さから1.7m高い護岸ができるようになります。

この設置位置が砂浜の真ん中になっておるんですけども、こちらに関しては海岸法で規定にある海岸保全区域ということで、海岸を災害から守るという施設を作りましょうという範囲で、そちらの方で整備したイメージになっています。

このイメージとは違いまして、先ほどいすみ市さんの方からお話しありました。昨年度の海岸づくり会議の方では、自転車道のところで整備できないのかというご意見もいただいているところです。

次のページ (P17) とその次のページ (P18) が、こちらは同じく塩田川の方に近くなっている場所ですけれども、そちらの方での整備イメージがされております。海が見えたり見えなくなってしまうという感じがあるところになります。

れでは20ページまでとんで、21ページの整備をご覧ください。

こちらの方は、塩田川を渡りまして埋め立て地のところの、護岸のイメージ図になります。こちらの方は、塩田川の右岸の河口部の防波堤ですけれどもこちらの方はさっき見ていただいた3点のところと違いまして、地盤の高さが3.89mのところの既設の防波堤が1.1mの堤防が設置されておまして、現在の堤防の高さが+4.98mとなっております。

下の方がハード対策を行ったイメージになっております。

こちらの方に防護高の+5.8mまで嵩上げしていくことになると、嵩上げ高が約0.8mで、今の既設の通路からすると約1.9mの高さという形になります。

ご覧のように、通路から海が見えなくなっているというイメージとしています。

こちらの方が、日在浦地区の砂浜と塩田川の防波堤の状況になります。

続きまして、南部漁港事務所さんの方から大原の漁港海岸の説明をさせていただきますと思います。

○**南部漁港事務所** 南部漁港事務所です。よろしく申し上げます。

大原漁港海岸地区(P23)と書かれているところから見ていただければと思います。

次のページをご覧ください。(P24)

津波対策の基本的な考え方についてお示しのとおりでございます。

次をご覧ください。(P25)

基本的な考え方として先ほど土木さんの方からご説明ありましたが、漁港においては日在浦地区と違うのは、大原漁港海岸地区でも津波対策として必要な高さを採用していますが、漁港施設の背後地は、既存の防波堤等へ津波が衝突することによって津波の浸水高が低減するため、防護ラインの前面の津波高さ T.P. +2.9mに、地震に伴う地盤の沈下量 10cm を加味しまして、T.P. +3.0m を海岸保全施設の高さの目安として設定しました。

漁港施設のない漁港区域の南側、丹ヶ浦地区については防護ライン前面の高さに地震に伴う沈下量 10cm を加味しまして、T.P. +5.8m を高さの目安として設定いたしました。

次をご覧ください。(P26)

こちらは参考の資料となりますが、防波堤と防潮堤による多重防護の考え方のイメージとなります。

次をご覧ください。(P27)

浸水予想範囲における浸水深さを2つに色分けしております。45cm 未満の範囲は黄色、45cm 以上の範囲は水色で示してございます。

次をご覧ください。(P28)

大原漁港海岸地区における津波対策として必要な高さについて、海岸保全施設等にハード対策を行った場合のイメージをお示しいたします。

図面の左手から右手にかけて、漁港施設の背後を1工区、それ以外を2工区として分けまして、各地点における撮影方向と写真となります。1工区は、お住まいの建物を守るために、岸壁や既存防波堤に沿って防護ラインを考えております。

赤のラインが防護ラインとなっております。

青のラインで示す2工区は、現状の地盤が高いために津波による住宅等の被害が想定されない区間でありまして対策は不要と考えております。

なお、赤丸で示したところは現状、背後地から岸壁等への開口部となっておりますが、開口部への対処については構造形式や統廃合など今後の設計段階に詳細に検討するため、現時点での対策は未定としてございます。

次をご覧ください。(P29)

ここからは整備案の対策後のイメージとなっております。

防潮堤等のハード対策を行った場合、漁港施設の背後は先ほど説明した海岸保全施設等の高さの目安となる T.P. +3.0m の堤防の高さとなることから、堤防の壁の高さは現状の道路より約 60cm 高くなることとなります。

整備に向けては改めて測量を実施していき、開口部の処理については構造形式など、皆さんの意見を聞きながら検討しなければなりません。

次をご覧ください。(P30)

イメージ図 2 の付近は防潮堤がない箇所が多いことから防潮堤が新規に必要となります。岸壁近くに防護ラインがあるため通行箇所が限定されることや、防潮堤の新設などにより漁港の利便性が低下することが懸念されます。漁港への利便性を考慮しまして、遠隔操作や自動化なども検討しなければなりません。

次のページをご覧ください。(P31)

イメージ図 3 付近で夷隅東部漁業協同組合の前あたりになります。

開口部の統廃合も必要となり、通行できる範囲が限られてくる状態でございます。

次をご覧ください。(P32)

イメージ図 2 付近と同じく、防潮堤がない箇所が多いことから、新規に防潮堤が必要となりますので、漁港の利便性が低下することが懸念されている状態でございます。

簡単ですが、大原漁港海岸の説明を終わらせていただきます。

○**司会** それでは資料 3 の説明が終わりました。

津波に対する防護ということで、防潮堤の説明がありましたが、資料にありましたが、あくまでもイメージとなっております。これで決定ということではありません。

お手元の資料 4 でございますが、昨年 7 月に行われた第 1 回海岸づくり会議の会議録の要約版で、いすみ市のホームページにおいても公開させていただいているものです。昨年の海岸づくり会議の中でも資料 3 の説明が行われましたが、説明に対し防潮堤の建設に対する反対意見はありませんでした。

会議の主な意見は、大原漁港においては漁港だけではなく漁港背後の住家にも配慮した計画をしてもらいたいというものでした。

その他には、津波に対する防御する場所が砂浜ではなく、既存の自転車道の位置で自転車道を嵩上げる意見や防潮堤はコンクリートによる無機質なものではなく、景観や観光に配慮したものにしてもらいたいなど、また、海岸管理者と保安林管理者にとらわれず人命財産を重要視し、総合的に考えていく事などの意見をいただいております、それらが記載されております。

それでは、以上で次第 4 の「事業説明」を終わらせていただきます。

5 意見交換

○**司会** 次第 5 「意見交換」に入らせていただきます。

発言の際には、お名前をお願いしたいと思います。また、どんな些細なことでも、要望でも疑問でも結構です。質問に対してはこの場で即答できないこともあります。意見聴取の場としてこの勉強会を有意義なものにしたいと思います。何かございますでしょうか。

○**出席者A（漁協）** 私は前回の会議にも出て、ある程度の内容を聞いているんですけどここに人たちの場合は、今日初めて聞いたようなものだから意見交換というのは、直接の形の場合は、意見というのはあまり出ないと思うんですよ。

構想的なもののある程度の部分の説明をもうちょっと密にしてもらえる方がいいのかなと。

ここに人たちの場合は、漁港施設の写真やなんか見てわかると言えば、それまでなんですけれども、高さとか位置とかそういったことだったり、自分達の行動するのに制約を受けたり、そういった部分があって基本的な構想としては、こうである。まだそこまで説明できる段階じゃないかなと。

○**市 建設課** そうなんです。具体的に設計とかが、これから防潮堤が必要となったら進めていくっていう形になってくるんですけども、今、千葉東沿岸の海岸保全計画に基づく防潮堤が必要だっていう高さが示されまして、津波対策の防潮堤が必要じゃないかと我々は思っているところで、関係する区の方々、また漁組の方々にもこの辺、本当に必要であるべきものじゃないか、ということで説明会を開催させていただいているところなんです。

○**出席者B（理事）** 津波が来た時に財産なくなっちゃったって言うでしょ。防潮堤でもいいんだけど、その前に船が壊れるから、港をもう少し嵩上げていうか、あの岸壁をね、してもらえた方がね。それも少し考えたりとかしてくれればいいと思います。

今でも台風来て津波じゃなくても高潮になると溢れちゃうので、やってもらってなんだけどもなかなか使いづらい。商売道具が壊れちゃえば何にもならないから。

○**出席者A（漁協）** 統括して、どっちの方向性でどうっていうのも、なかなか今はきちっとした方向性すらまだ決まってない。まずは、ソフト面の避難方法あたりなどが優先されるものがある。

事業費と事業の進捗において、どのくらいの期間がかかるかを考えると、その前に当然、避難の方のソフト面の方の拡充、この写真とかで見て漁港近辺あたりに住宅地が隣接、海岸線で隣接しているのが多いので。ただ、状況からするとちょっと後ろが少し高くなっているから、直接的な被害的なものは、それこそ5m、6m、10mなんていう津波の高さなら分かるでしょうけど、そういうのでなければ、まあ前回だけどその臨港道路あたりがちょっと水が上がったぐらいですから、それ以上の形のものになるのが出てくるのかというのを思えばいいところであれば、被害的なことを考えると、ソフト面のところを拡充し、両立するのが大事なのかなと、港湾施設に港があ

る、岸壁があるというのは、直接ある程度ちょっと違うんですね。

水が上がってきて浸水するとか。でも津波による水面の上昇はどうしたってあるんですけれども、直接波が打ち込むみたいな形にはならないような形であれば、やっぱり岸壁の方の拡充とかがきちんとした形でやってもらえれば、事業の進捗までには現場としての意見交換とかも、もっと何回もやらないといけない状況になってくる。

今日はまだ意見交換といっても交換する状況では無いので、そういう形でお願いできたら。どうですか。

○市 建設課 まあ、第一回の勉強会ってことで理解していただければ、と思います。

○出席者C(理事) 何にも声がないとあれなんで、既存の防潮堤を嵩上げする分については、そこに防潮堤があったのが高くなるだけなんで、そんなに生産活動に影響があるというのは無いと思うんですけど、ただ開口部の処理というのもあると思いますけどね。全くないところに新設で臨港道路の上とかに防潮堤を新設した場合には、やっぱり相当の漁業者の今現状で使っている漁港の生産活動には相当な支障がある。開口部としても限られるので、リフトで何か運ぶとか、色々するにしても通れるところ決まっちゃうので、それは結構、漁業者にとっては使いづらくはなると思うけれども、趣旨が後背の住宅やそういう人達の生命財産守るという観点から言えば、その防潮堤を設けるのが本筋なんだろうけど、その辺は位置だとか場所だとかで、やっぱり漁業者の生産活動の制限が極力少ないような場所で選定してもらわないと、かなりの支障が出るかなという部分もあると思います。

船を引き上げるところが、防潮堤の中なのか外なのか、そういう部分にも。

現行の案なのでしょうけども、ただそういう話を進めていく中で、漁業者の使用する使い勝手っていうのもその時に考慮してもらいたい。

○司会 いま組合長さんからの話があったんですけども、あくまでイメージということで、今後の内容というお話もありましたけれども、中村さんの方から話がありました意見、邪魔にならないところにやってくれとかいう話でも全然問題はないんですけども、他に特になんかということ、よろしいでしょうか。

○出席者A(漁協) 今のところは、その意見が出ないとこちらの方も対応できない。

今言われた意見の条件突き合わせて進むのであれば、設置には反対ということをするのも出来ないです。

財産生命を守るためのものということですとあれば、それは受諾しなきゃいけないでしょうけど、それにしてもやっぱり要件を話し合っていかなきゃいけない。

ここでは、議論する案件・要件・意見がまだない。

○市 建設課 わかりました。今後また県の方とですねその辺、進め方もちょっと協議しながら相談させていただければと思いますので、よろしくお願いします。

○出席者A(漁協) 現場の方が一番大変だから、皆さんも大変だけど。

皆さん、それでよろしいですか？

○出席者B(理事) どっちみち、皆集めて聞かないとまずいもんね。

ここで話が終わる話じゃねえんだから、全員に来てもらって説明してもらわないことには、結局はただこういうのですよと今聞いただけで。今日のところは。

○市 水産商工観光課 今日のところは理事さんにとりあえず1回目ということですね。方向の計画性があるということですね。

○出席者B(理事) もし、本決まりでそれやるのであれば、みんな集めて、また意見聞かないと、いろんな人がいるからね。

工事始めれば仕事に支障が出る、網仕事できないからね。

○出席者A(漁協) 難しいわね。申し訳ないけどこの後、理事会があるのでこの辺で終了してよろしいですか。

○司会 はい。

6 その他

○司会 お知らせ等、特になし

7 閉会

○司会 それでは、これで勉強会を閉会したいと思います。

本日は本当に長時間にわたりお時間をいただき、ありがとうございました。またお話あると思いますけれども、よろしくお願ひしたいと思います。

閉会 午後4時36分